

# サクラ展示林

誌名	農林水産技術研究ジャーナル
ISSN	03879240
著者名	小林,義雄
発行元	農林水産技術情報協会
巻/号	4巻4号
掲載ページ	p. 35-40
発行年月	1981年4月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター  
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council  
Secretariat



# サクラ展示林

— 農林水産省林業試験場浅川実験林 —



八重紅虎の尾

## サクラ展示林が出来るまで

春になると日本の山や野には江戸彼岸（えどひがし）や染井吉野（そめいよしの）、山桜などのサクラの花が咲いてくる。

在原平が「世の中にたえて桜のなかりせば、春の心はのどけからまし」とうたっているが、日本の春にサクラを忘れることはできない。

昔から日本人に親しまれ、愛されてきたサクラは、日本の花の代表として海外にまで広く知られている。サクラは昔から多くの園芸品種が育成され、各地に貴重な品種が植栽されている。しかし、このごろは、各地の公園、神社、寺院などにあるサクラの名木のなかには、公害や病虫害などの被害をうけ、樹勢のおとろえの目立つものが増えてきた。このような状況に対応するには、これら名木の保護対策を講じることはもちろんであるが、さらに、広く後世に伝えるためには貴重な品種を増殖して保存する必要がある。

このような事情から貴重な品種を国家機関で長く保存するとともに、日本を代表するサクラの美しさを一般に展示して欲しい、という要望が高まってき

## 小林 義雄

た。これに応じて農林省（現農林水産省）は昭和40年にサクラ展示林を造成することをきめ、その準備に入った。

農林水産技術会議事務局が中心になって「桜対策研究会」が設立されて各種の調査が行われ、なおサクラ展示林造成地として林業試験場浅川実験林（東京都八王子市）が選ばれた。

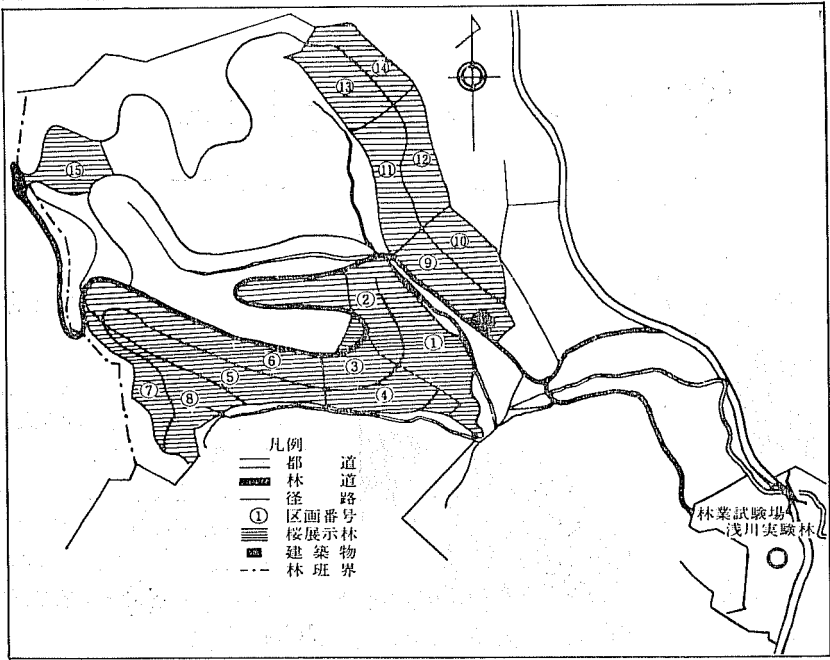
そして昭和41年度から3か年計画で200品種、2,000本を4haに植栽することが決められた。

浅川実験林は自然環境に恵まれているとはいえ、海拔183～287mの低山地であるから、サトザクラ類には気候的に多少無理なところもあるが、しかし総面積57haの当実験林のほぼ中央部に展示林が造成されることになった（第1図）。

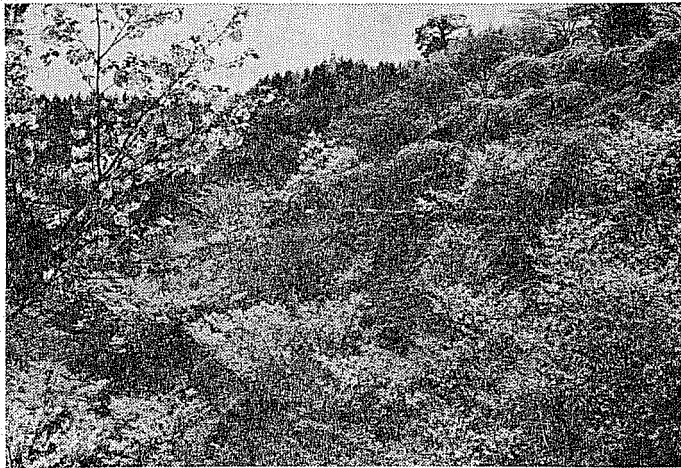
1927年～1959年の33か年間の観測結果によれば、浅川実験林の気候は年平均気温13.4℃、最低気温の極-10.6℃（1931年）、年平均降水量1,856.2mmであり、植物気候的には暖帯上部にあたる。基盤地質は中生界小仏層群の粘板岩、砂岩からなるが、平坦な峰筋ではそれらが火山灰の堆積した関東ローム層によっておおわれている。サクラ展示林造成地は、比較的平坦な峰筋に現われるローム質褐色森林土および斜面地形を占めている粘板岩、砂岩母材の石礫質褐色森林土の土壌のところ、かつてはモミ、カシ、アカマツなどが主体をなしていたが、虫害や台風被害のため、これらの主木が枯損して、雑木のみが残存しているところであった。

造成は雑木を取り除き、きれいに地ごしらえして、直径1.5m、深さ50cmほど耕耘した植穴をつくり、粒状固形肥料120gを施し、植穴の間隔は5.5m、各品種4～9本あてを一区画とした作業が進められ、昭和42年3月には、購入した苗木を用いて、1.4haに54区画、426本の植栽が実施された。

Yoshio Kobayashi: The Japanese flowering cherry garden—Asakawa Experimental Forest, Forestry & Forest Products Research Institute.—



第1図 サクラ展示林位置図



写真一 浅川実験林のサクラ展示林

山桜や江戸彼岸など山地植栽に適したもののほか、染井吉野や里桜類など地味肥沃なところを好む園芸品種が多かったため、山地である当実験林での植栽には十分な注意が払われた。植栽する苗木は大苗でなく、接木後1～3年を経た高さ1.5m内外の苗木を用い、灌水設備のない山地のことであるから、苗木の活着をよくするために、植栽当初は根元に敷わらを施し、春先きの渇水対策として、ドラムカンを配置して、急場の灌水ができる準備をととの

えた。

昭和42年の春からは、各地の植物園、研究所およびサクラ愛好家などに依頼して、各品種の接ぎ木用穂木の分譲を受け、また名木や天然記念物のサクラの中で品種として貴重なものや巨樹として著名なものについては、文部省、林野庁および各都道府県の協力をえて穂木が集められ、浅川実験林苗畑で接木苗作りが始められた。

各地に散在するサクラ品種の収集と苗木作りは、

第1表 サクラ展示林の主な種類 (番号は第1図の位置を示す)

① ショウゲツフゲンゾウオオヂョウチン	淡紅・八重・4月中 淡紅・八重・4月下 淡紅白・八重・4月中下	ウコン カンザン シロタエ ソメイヨシノ	淡黄・八重・4月中下 深紅・八重・4月中下 白・八重・4月中 淡白紅・一重・4月上
② ウスズミジョウニオイギオンシダレヤエベニシダレモリオカシダレナラヤエザクラ	白・一重・4月中 白・一重・4月中 白・一重・3月下 淡紅・八重・4月上 白・一重・3月下 淡紅・八重・4月中		⑨ アサヒヤマ タイハク ケンロクエン クマガヤ ナデ ツクバネ
③ スミゾメヤエアケボノサノザクラオオカンザクラカンザクラマザクラ	白・一重・4月中 淡紅・八重・4月中下 淡紅・八重・4月中 淡紅・一重・3月中 淡紅・一重・3月上中 白・一重・4月中		⑩ タオヤメ ナラヤエザクラ ゴシンザクラ コチヨウ ギオウジギョ ザクラ
④ ヨウキヒフクロクジュシラユキスルガダイニオイケンロクエンキザクラショウワザクラ	淡紅・八重・4月中下 淡紅・八重・4月中下 白・一重・4月上中 白・一重・4月中下 淡紅・菊咲・4月下 白・一重・4月上		⑪ カンザクラ シュゼンジカン ザクラ ナジマザクラ ゴショザクラ ケタシロギク
⑤ ケンロクエンフユザクラオオシマザクラミクルマガエシカンヒザクラアリアケ	淡紅白・八重・12月と4月上 白・一重・4月上中 淡紅・半八重・4月中 緋紅・一重・3月下 淡紅白・半八重・4月中下		⑫ 清秀の桜(長野県・エドヒガン)白・一重・3月下 昌学寺の不老桜(宮城県・シダレザクラ)白・一重・3月下 薬師桜(山形県・エドヒガン)白・一重・3月下 普濟院の桜(東京都・オオシマザクラ)白・一重・4月上中 オオヤマザクラ 淡紅・一重・4月中
⑥ キクシダレチチベニシダレカルギヌコヒガンザクラ石割桜(岩手県エドヒガン)	淡・菊咲・4月下 淡紅・一重・3月下 白・一重・4月中 淡紅白・一重・3月下 白・一重・3月下		⑬ イツカヤマ シオカゼザクラ ボタンザクラ コトヒラ ココノエ
⑦ スルガダイニオイスンバガワフユザクラキリンギョイコウアマノガワ	白・一重・4月中下 淡紅白・一重・12月と4月上 深紅・八重・4月下 淡緑黄・八重・4月下 淡紅・八重・4月下		⑭ カスミザクラ オオヤマザクラ ミチノクベニヤマ ザクラ 横山桜(山形県・エドヒガン)白・一重・3月下 ウスゲオオシマ 白・一重・4月上中
⑧ イチヨウオムロアリアケスジャクタカマツチゴザクラ	淡紅・八重・4月中下 淡紅白・八重・4月中下 淡紅・八重・4月中下 淡紅・菊咲・4月下		⑮ アマヤドリ トウカイザク チョウジザクラ エドザクラ

3か年計画の終了後も継続され、品種の比較検討、同定・整理の努力がつけられており、品種数は逐次増加して、現在450クローン、2,500本が6haの地域に植栽されている（第1表、写真-1）。

### 植栽後の管理状況

サクラ展示林造成の成功、不成功には、植栽後の管理状態が大きな影響を与える。浅川実験林は山地であるため、畑地と同一に扱うのは困難である。除草は根元周囲の宿根性の雑草のみを取り除き、植栽木の中間部分に生える低木や雑草は6月と8～9月の2回下刈りを行い、刈り取った草はそのまま置いて、地力の維持に役立っている。

サクラの樹勢を良好に保つために、毎年寒肥を追肥してやり、根元にはバーク堆肥を施してマルチングしてやり、また必要に応じて鳥居形支柱あるいは三本支柱による補強を行って強風に耐えられるようにしている。

病害虫被害の早期発見につとめ、展示林全域に配管された薬液散布施設と小型散布機によって適時に薬剤散布を行い、その予防につとめている。なお、よく目につく害虫は春先のウメケムシ、初秋のモンクワシ、枝幹に白くつくウメシロカイガラムシ、新梢のナンヒメシンクイ、新葉に虫こぶをつくるサクラコアブラムシなどで、植栽当初のまだ若木のうちは被害を受けたが、防除措置を講じたので現在はほとんど被害がなくなっている。

過去10年間に特に問題になったものは、害虫ではコスカシバ、病害では地下部のならたけ病で、被害木の中にはこれらによって枯損または強風時に風倒したるものもある。また展開したばかりの新葉を侵す、幼果菌核病（モニリア病）も注目すべき病害で、早春に開花展葉する支那実桜、寒桜、椿寒桜などにとくに被害が多い。

そのほか根頭がんしゅ病やてんぐ巢病もサクラの天敵であるが、展示林内にはまだ少なく、早期に除去しているので現在のところ大きな被害が出ていない。なお、隣接する市町村に大発生しているアメリカシロヒトリは、展示林内にはまだ認められていない。

### サクラの生育状況

サクラ展示林内には、山桜、大山桜、大島桜、江

戸彼岸、豆桜、丁字桜、寒緋桜などの野生種および染井吉野、里桜などの多数の園芸品種が集められている。数多くのサクラの種類を植栽するのであるから、植栽場所はそれぞれの種類の生態的特性にあった場所を選ぶ必要がある。里桜、染井吉野などの適潤な肥沃地を好む品種はローム質の斜面下部に、山桜、江戸彼岸など比較的乾燥地に耐える種類は斜面上部に配置するようにつとめた。しかし、小じわの多い地形で、限られた地域に肥沃地を好む多数の品種を収容するためには、多少無理と思われる植栽もやむをえなかった。

植栽後10年を経た今日、その生育状況をみるに、適地に植栽された比較的強健な種類は、おおむね順調な生育をして、毎春美しい花を咲かせている。しかし、病害虫に弱く、樹勢のよくないものも一部にみられる。

サクラの多くの種類を同一地域に植栽すると、種類によって生育に優劣のあることが知られる。当展示林で生育が比較的良好なものを選び、その生長経過をまとめたのが第2表である。すなわち、斜面下部に植栽された染井吉野は植栽当初、平均樹高1.8m、根元直径1.5cmほどであったが、12年後には樹高10m、根元直径26cmに達している。また、斜面中腹に植栽された山桜系の佐野桜は平均樹高1.6m、根元直径1.9cmほどの苗木が、12年後には樹高8m、根元直径24.6cmに達し、斜面上部の江戸彼岸は平均樹高8.8m、根元直径25cmに生長した。

### サクラ展示林の花ごよみ

花見といえば全国各地に広く植栽されている染井吉野の開花時期が一般的で、当展示林には一部に染井吉野も植栽されているが、その面積はせまく、格別の華かさはない。しかし、そのかわりに200種以上ものサクラがつぎつぎと長期間にわたって開花するので、それぞれの花の変化をながめられる特長をもっている。開花期は2月下旬から5月上旬までつづき、中には11～12月に咲くものもあり、開花の最盛期は里桜が多い関係から4月中旬～下旬ごろになる。

一般の見学時間は平日および土曜日の午前中であるが、昨年は4月だけで5,000人もの見学者が算えられ、その数は年々増加している。

展示林には、初冬の季節はすれに咲く冬桜や十月桜もあり、11月から12月に花が開くので珍しがられ

第2表 浅川実験林におけるサクラ品種の生育状況

調査時期：1968年4月15日および1980年9月30日 ( )内は生育最大のもの

品 種 名	植栽位置	1968年 (平均)		1980年 (平均)		調 査 本 数	備 考
		樹 高 m	根元直径 cm	樹 高 m	根元直径 cm		
エドヒガン	斜面上部	1967年植	—	8.8 (10.0)	25.0 (28.0)	6	エドヒガン系
シダレザクラ	斜面上部	1.27 (1.40)	1.74 (3.20)	6.8 (7.0)	27.8 (32.0)	5	〃
ベニシダレ	斜面上部	1.50 (1.85)	1.26 (1.80)	6.0 (6.0)	23.0 (29.0)	8	〃
サソザクラ	斜面中腹	1.61 (1.80)	1.87 (2.20)	8.1 (9.0)	24.6 (27.0)	9	ヤマザクラ系
スルガダイニオイ	斜面上部	1.79 (2.00)	1.93 (2.60)	4.8 (5.0)	21.7 (23.0)	6	サトザクラ系
ソメイヨシノ	斜面下部	1.84 (2.15)	1.47 (1.60)	9.5 (10.0)	26.3 (32.0)	8	エドヒガン× オオシマザクラ
オオシマザクラ	斜面中腹	1.60 (1.80)	1.60 (1.80)	7.8 (9.0)	26.6 (38.0)	5	オオシマザクラ系
フゲンゾウ	斜面下部	2.07 (2.40)	2.51 (3.00)	6.4 (8.0)	20.6 (23.0)	7	サトザクラ系
カンザンA	斜面下部	1.86 (2.10)	2.27 (2.50)	6.3 (7.0)	21.3 (24.0)	4	〃
カンザンB	斜面上部	1.51 (1.62)	1.27 (1.40)	6.0 (6.0)	23.3 (24.0)	4	〃
ウコソク	斜面中腹	1.91 (2.12)	2.61 (2.90)	6.9 (8.0)	24.3 (32.0)	8	〃
イチヨウ	斜面下部	1.95 (2.55)	1.90 (2.80)	6.6 (7.0)	22.8 (26.0)	5	〃
カンヒザクラ	斜面下部	1969年植	—	5.8 (6.0)	17.3 (21.0)	4	カンヒザクラ系
シュゼンジ カンザクラ	斜面下部	1970年植	—	10.0 (10.0)	28.3 (30.0)	3	カンヒザクラ系

ている。寒桜は厳寒の2月下旬から3月にかけて、ウメの花に負けない淡紅色一重の花をつけ、ときには淡雪に花が埋れて趣をそえることもある。同じ寒桜系でも大寒桜や修善寺寒桜は開花がやや遅れて3月中旬になる。そのころには寒桜の母種になっている中国南部、台湾原産の寒緋桜も濃緋紅色の花を下向きに半開きさせる。沖縄では1月下旬に咲き、サクラ祭りの主役を演じているのがこのサクラで、紅梅とまちがえるほど赤い。

3月も彼岸過ぎれば暖かさも日一日と増し、江戸彼岸、枝垂桜、豆桜などが、葉に先立って小枝にいっぱい小柄な花を開いてくる。

当展示林内には、江戸彼岸の巨樹としては日本一の山梨県武川村実相寺境内にある山高神代桜や山形県長井市の伊佐沢の久保桜、巨岩を割って生えている盛岡市の石割桜をはじめ、枝垂桜の巨樹で福島県三春町にある三春の滝桜、兵庫県温泉町にある竹田泰雲寺の枝垂桜など多数の巨樹の分身が集められている。

枝垂桜の中でも花が紅色一重の紅枝垂や京都の平安神宮に多く植えられている八重咲きの八重紅枝垂は優美な姿に垂れて咲く。

4月の声を聞くと、染井吉野が咲き出し、類縁の三鳥桜、伊豆吉野など国立遺伝研究所で作出された種類も満開になる。町中の公園ではお花見気分のあるところであるが、展示林には里桜が多いためそれほどではない。つづいて、大島桜が新葉とともに花を開き、山桜が赤茶色に染まった葉とともに淡白紅色の花をほころび始めるのも、このころである。

東北、北海道や本州の深山に多い大山桜は山桜よりもおくれ咲くが、別名紅山桜と呼ばれるように紅色の美しい花を開く。関東以南の山地に多い山桜は日本の代表的サクラである。明治以前には染井吉野がなかったので、お花見といえば、もっぱら山野に多い山桜が主役を演じてきた。吉野山、嵐山、桜川、小金井など古くからの名所はいずれも山桜である。新芽の色、花色など変化に富み、奥ゆかしい趣をもっている。栽培されている八重咲品種の御信桜(ごしんざくら)は赤茶芽、淡紅色の八重で花卉が30個内外あって美しい。京都の佐野藤右衛門氏の名を冠する佐野桜も淡紅色の花卉が12~15個あり、大枝がやや上を向いた樹形になる。当展示林のものも生育がよいので、樹形の特徴を生かして並木や狭い庭園に利用するのによいサクラである。

4月も中旬すぎになると、花が変化に富み品種の数も多く集まっている里桜が咲いてきて、展示林も花で埋まってくる。

里桜は大島桜を主として、これに山桜、大山桜などが交雑したものから改良選出された園芸品種の総称である。花は一重、八重、色の濃淡、匂いのよいものなど変化に富み多数の品種があって、4月中旬から下旬に開花する。一重の花の中には太白(たいはく)のように花径5cm以上の大きな白花を開くものもある。桐ヶ谷(きりがやつ)は御車返(みくるまがえし)とも呼ばれ、紅色の大きな花で、一重の花と6~8個の花弁をもった花とが、同じ木に混って咲くので、一重八重ともいわれ、昔から有名なサクラである。上旬はやや上向きに白花を開き、咲きはじめにはよい香りがある。この花には5~6個の花弁のほかには旗弁を混えている。サクラの八重咲きは主として雌しべの弁化によって起こり、雌しべの弁化の程度は多様であって、弁化の不完全なものでは、葯だけ弁化して、花糸の先についたようすが旗



写真一2 松月

のように見え、旗弁と呼ばれている。里桜類には花が大きく、弁数の多い品種がたくさんあって、これらがつぎつぎに咲いてくると展示林はまさに花盛りである。花卉が15~20個あって、白い美しい花がやや下向きになって咲く白妙(しろたえ)や花が淡紅色の法輪寺(ほうりんじ)、東錦(あずまにしき)、福祿寿(ふくろくじゅ)、八重紅虎の尾(やえべにとらお)、楊貴妃(ようきひ)などが美しさを競いあう。関山(かんざん)、普賢象(ふげんぞう)、松月(しょうげつ)(写真一2)、などには花卉30個内外の濃艶な大きい花が咲く。

普賢象は淡紅色の花が垂れさがり、雌しべが2個、まれに5個もついている。この雌しべは、柱頭の部分を残して、子房が緑の葉の状態に変わっている。関山、松月などの雌しべも同じように葉化しているが、普賢象の名は普賢菩薩の乗ったゾウの鼻を花にたとえ、牙をこの雌しべに見たてて名付けられたといわれ、遠く室町時代から知られている品種である。

里桜の中でも緑黄色の変った花が咲く鬱金(うこん)と御衣黄(ぎょいこう)は訪れる人々の注目の的である。御衣黄は鬱金よりも花がやや小さいが、花卉の中央に紅色の縦線が出てくる。鬱金の枝変りに花形が御衣黄そっくりで、花卉の緑色味がつよく、葉と同じように花卉のへりに鋸歯のある花がつくことがあり、緑黄色の花弁は葉化への途中の形と考えられる。

さらに変異性に富んだものに、花卉が100個以上にもなる菊咲きのサクラがあり、兼六園菊桜、数珠掛桜、名島桜、太田桜などが4月下旬に咲いてくる。花卉数が多いうえに、一つの花の中にさらにもう一つの花が重なり、二段咲きになっている。兼六園菊桜は花卉数が最も多く、老木になると350~380個の花弁をつける花もある。花柄や葉に毛の多い有名な奈良八重桜は菊桜と前後して咲き、この花が咲き終ると、はなやかだったサクラ展示林もやがて新緑となり、もとの静けさをとりもどす。

(林業試験場浅川実験林樹木研究室長)